

# あかえりなさい! 鹿北原井手 コース

～先人の苦勞した「水音」が聞こえます～  
KAHOKU HARUIDE COURSE

## 山鹿 フットパス

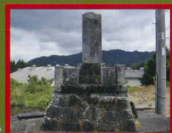
約3.6km  
所要時間:90分  
高低差約:40m



原井手に貢献!  
西田長衛門墓



井手記念碑



原井手のゴミを  
かわかす屋敷根の横の  
小さな土居そのほとに所は  
原井手がある



かえる石



多久神社

参道  
6日にはあじさいの花が!!  
杉の大木



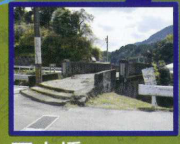
本99年の  
47の本

もとだく  
(本99年)

本多久橋

たまには野山にかえって  
本当の姿に戻って  
羽をのばしましょい!!

- 凡例
- 目印 ●
  - 見どころ ●
  - ビューポイント 📷
  - 駐車場 P
  - トイレ 🚻
  - 裏に解説あり ①～⑦
- およそ100m



田中橋



ちょっとだけなら  
水汲みもok!

ゴール スタート

販売所



至岳間溪谷

至鹿北

18

至菊鹿

# 山鹿 フットパス 鹿北原井手コース

約3.6km

所要時間:90分

高低差約:40m



## フットパス (foot path) とは

フットパスとは【foot=歩く】【path=小径】のこと。積極的に歩くことを楽しんでいるイギリスが発祥です。昔から地域に残るありのままの風景の中を、ゆっくりと心と体で感じながら歩きます。歩くことで見えてくるご当地ならではの風景や、地元の人との触れあいが、フットパスの楽しみ方です。マップ片手にGO!

## ためきのアドバイス

- ★コースには2色のリボンの目印があるよ!
- ★駐車場はもみじ庵を利用してね!
- ★トイレはもみじ庵、無人販売所隣、JA・Yショップを利用してね! (休日に注意)
- ★雨天時の未舗装の農道は足元が悪くなるので注意してね!

制作・発行:山鹿もてなしたい 090-8947-4950(山本)



## スタート・ゴールはこちらから

### ① もみじ庵 おがさわら

長い年月をかけて造られた庭園の眺めと、静かな里山に囲まれた空間の中、地元の旬の食材を使った体にやさしいお料理を贅沢な空間でお楽しみいただけます。



営業時間/11:00~15:00  
定休日/火曜  
お問合せ/0968-32-3870

## 支払い箱が画期的!!

### ② 無人販売所

無人ですが、地元で採れる旬で新鮮な農産物に、地元の人(心)を感じます。

営業日/月曜~金曜



## かわいい狛犬がお出迎えます

### ③ 多久神社

今から約千年前に創建されたと伝えられ、現在の社殿は、昭和32年に建てられたものだそうです。参道の両側の大きなスギは、約200~300年前だと言われ、参道の樹木群は山鹿市の天然記念物。他にも、クスやタブ、シイ、イチイガシなど、林立する樹木群は山鹿の天然記念物です。



こまいぬ

## 日本初の紅茶が復刻しました

### ⑤ 藤本製茶

山鹿のお茶は江戸時代(寛永年間初期1630年頃)から肥後藩細川家の御前茶として献上されるなど、歴史的背景をもつ屈指の茶所です。明治8年(1875年)には紅茶伝習所が山鹿に設置され、その紅茶を復刻させたのが藤本製茶です。また、鹿北は名水が沢山あることでも有名です。おいしい水でおいしいお茶をお召し上がりください。  
お問合せ/0968-32-2540



## さあ! 童心の小道へ

### ④ 地元の人しか知らない小道

脇道や細道など、地元の人しか知らない小道を歩けば、懐かしさや冒険心が芽生え、どこか癒されるのも確かです。また、手掘りの井手を見ることができます。



## 「たんなかばし」と読むんだよ!

### ⑥ 田中橋

安政5年(1858年)鹿北最古の石橋で、橋の脇にある碑には「藤からむ巖と化せよ車橋」との句が刻まれ、通称「車橋」と呼ばれていたことがわかります。構造は珍しい二重輪石で造られています。また、肥後における石工の祖と言われた菊鹿町の石工仁平の流れをくむ作り方で、要石にダボ(金属)が使用されています。



## 「鹿北原井手コース」の目玉です!

### ④ 原井手(はるいで)

「原には嫁に行くな」と言われるぐらい原は水のない過酷な地区でした。そこに水を供給するために文政11年(1828年)に農民が作った用水路が原井手です。全長は約4Kmに及びます。庄屋西田長右衛門は、飢えに苦しむ人々を救うため藩の資金と私財を投じて5年の歳

月をかけてこの水路を完成させました。断崖絶壁の地や、硬い花崗岩を削岩するなど、難工事のため資金が底を尽き、中断することもありました。そんな苦心の末、完成した原井手には今もノミの跡が残ります。初めて水が流れる音を聞いた当時の村人たちの感動はいかばかりだったでしょう。

